

# 寒河江地区

# ふくし

令和 4 年 12 月 5 日

第 11 号

発行

寒河江地区社会福祉協議会

## 地域福祉活動の推進に向けて



寒河江地区  
社会福祉協議会  
会長 庄司 進

常日頃、皆様には寒河江地区社会福祉協議会（以下地区社協）の事業運営に對しまして、温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本年 4 月の総会は、コロナが猛威を振るっており昨年同様に書面決議とさせて頂きました。コロナが一日も早く収束し、元の平穏な日がくることを願っています。

益々少子高齢化が進み、人と人との関わりが希薄になる等、地域の福祉力の低下が懸念されます。高齢者の高齢化が進み、認知症等が増加傾向にあり、尚一層の「地域見守りネットワーク事業」の重要性が高まっています。普段から地域の人たちと顔見知りの関係になり、隣近所への気配り、目配りの心遣いを持ち、地区民が孤立感に陥ることのないようにお互い支え合える地域づくりが大切です。また、民生委員児童委員、地域福祉推進員等が訪問の際には、気軽にご相談下さるようお願い致します。

地区社協は、市社協をはじめ各関係機関等と連絡強化を図り、社会的弱者に寄り添いながら皆様と一緒に地域福祉活動を推進して参りますのでご支援、ご協力をお願い致します。

## 令和 4 年度事業について

近年の少子高齢化や核家族化の進展により、1人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯及び空き家等が急速に増えてきています。これにより地域や家庭のつながりの希薄化が進むなど社会環境は大きく変化し様々な課題が生じています。

このような中、本会においては、地域の福祉力の維持・強化を図るべく、これまで役員・委員の研修を実施するとともに、福祉施設の慰問や、各地区で開催されている敬老会を支援しています。そして会報「寒河江地区ふくし」を発行し、啓発活動を推進してきています。



わんぱくクラブ（第一・二・三）に慰問金を贈呈

令和 4 年度においても、事業の継続と充実・強化を図りながら、次の事業を重点に地域福祉の推進に取り組んでまいります。



きらきらクラブに慰問金を贈呈

## 重点事業

- ① 総会、役員会及び委員研修会の開催
- ② 組織の再編、小学校学区単位での分割推進、研究、検討
- ③ 地域見守りネットワーク事業への協力推進
- ④ 福祉施設への慰問、慰問金の贈呈
- ⑤ 敬老会事業への支援、助成
- ⑥ 会報「寒河江地区ふくし」の発行
- ⑦ 市社会福祉協議会及び関係各機関との連携、強化
- ⑧ 赤い羽根共同募金及び歳末たすけあい運動の推進
- ⑨ その他、社会福祉に関する事業

# 第五わんぱくクラブ

主任支援員 長岡 五月

わんぱくクラブは、寒河江中部小学校区の放課後児童クラブです。1992年4月に開設し、今年で30周年を迎えました。入所児童数が年々増加し、現在は5つの施設に分かれ、223名の子ども達が生活しています。第五わんぱくクラブは、栄町の既存建物の2階を改修して昨年4月に開所しました。

「たっ！ま！」子ども達は学校から帰ると、学校での出来事などを私たち支援員に話してくれます。ほっとひと息ついて安心して過ごせる雰囲気をお大切にしていきます。まずは宿題に取り組んだ後、ホールで元気にボール遊びや鬼ごっこ、保育室ではトランプや将棋、折り紙等思い思いに遊びます。天気の良い日は外に出て、近くの公園で自然を感じながら遊具遊びをしたり、駐車場の一角で一輪車や竹馬、リレーなどをして遊んだりします。けん玉やコマ等の伝承遊びも盛んで、季節感のあるクラブごとの行事も行っています。



ホールで楽しく遊ぶ子ども達

このような異年齢集団の生活を通して貴重な体験ができ、豊かに成長できる場になるよう、私たち支援員は子ども達に寄り添いながら支援しております。子ども達が元気に生活を送れることは、支えて下さっている寒河江市をはじめ、学校、地域の方々、保護者の皆様のご協力あってこそと心から感謝申し上げます。これからも子ども達の健やかな成長を支援していけるよう努めてまいります。

## 敬老会補助金 助成先 (申請町会名)

- 六供町公民館 ●本橋4町会
- 舟橋公民館 ●日の出町町会
- 中央地区 ●越井坂3町会
- 元町区 ●矢ノ目町町会
- 中内楯町会 ●陵南町町会
- 若葉町会 ●34町会
- 石持町公民館 ●新町1町会
- 八幡町町会 ●上町町会
- 27町会 ●ほなみ町会
- 東内楯町会 ●七日町町会
- 栄町公民館 ●美原町公民館
- 丸内町会 ●駅前1町会
- 20町会 ●末広町公民館
- 35町会 ●緑町4町会
- 丑町2町会 ●高田新町町会
- 新山町会 ●横町町会
- 東新山町会 ●南町町会
- みずき町会 ●新町町会
- 越井坂1町会 ●越井坂2町会
- 丑町1町会 ●西の町町会
- 山岸南町会

10月末日現在

## 緑町敬老会の取り組みについて

緑町代表会長 佐藤 明美

平成10年に緑町の住人となり、早くも20年を越してしまいました。このたび緑町4町会と、緑町全体の4つの町会の代表会長を引き受けることになりました。

緑町全体で今年6月20日現在、100名の敬老会会員がおります。緑町の敬老会の行事は、従来、団地会館(公民館)に宴席を設け、軽い食事と歌や演舞や落語等を地元中心の方々に披露していただきながら、懇談を中心に進めて来りました。

そこで今年はどうするか役員協議をしましたが、このコロナ禍での宴会開催は無理との判断から、昨年に続き、記念品配付のみとする事になりました。残念な仕儀ですが、昨年並みに頑張ることとしました。そこで役員が苦勞したのは、物価の値上がりへの対処でした。

昨年と同様のお品を用意するには、役員の方の努力とお店の方のご理解が相当ありましたが、10月23日に敬老会にお配り出来る準備



お茶飲み会も健康法の一つ

備は整いました。

さて、経験がほとんどのい者にと

って町内会長職は、相当重荷に感じる毎日です。

近年は、個人情報保護とかプライバシーの尊重が重要視されて

まは町内のおおよそを知る上で、ちょっと不便かなと思う事が時々あります。

緑町4町会には、炉辺(ろべた)会なる65歳以上の高齢者対象の仲良しクラブがあります。平成22年に有志4名が隣近所の懇親を深めるため立ち上げたクラブで、月1回団地会館に集まり、お茶飲み会や食事会を開催し、今日に至っております。この長く続けて来られた事に驚くと共に、そのノウハウに注目しています。併せて、地域福祉推進員の方から、この会が町内の様子を知る絶好の場だと教えていただきました。まさに「成る程」と思った瞬間でした。



炉辺会(楽しい食事会)

# 若葉町自主防災会

自主防災会長 宮川 徹

若葉町は、1・2・3町会合わせて約250世帯が生活する町会です。「住民の相互扶助」の精神に基づき、地震、水害、火災等の災害による被害の防止と軽減を図るために自主防災会を平成25年に立ち上げ、今年で10年目を迎えました。設立翌年に市の補助金を活用し、公民館敷地内に防災倉庫を設置し、発電機や照明、担架、リヤカー、ヘルメット等の備品を整備しました。

以来、近くの高瀬山に活断層があることから、同所を震源とする地震の発生を想定し、毎年、避難訓練や救護訓練、救急救命訓練、消火訓練、炊き出し訓練等を組み合わせて、班長さんや自主防災委員会のメンバー、公民館役員など約50名を対象に防災訓練を実施してきました。

昨年度は、市危機管理課の安孫子防災対策専門員を迎えて、公民館で「災害への心構え」と題した講習会と「世帯毎個別避難計画」の策定に向けた事前説明会を開催し、その後、通報訓練や避難誘導訓練、水消火器による消火訓練を併せて行いました。

全国的に、台風や豪雨等に伴う水害が毎年のように発生し、万が一の際に避難弱者の安全な避難をいかに実施するかという課題があります。



公民館での講習会



避難誘導訓練

若葉町でも1人暮らし世帯が多く、避難弱者が確実に増えています。公民館事業計画の重点目標の1つに隣組等を基盤にした地域防災力の向上

という項目を掲げ、今年には「世帯毎個別避難計画」を各世帯に作ってもらい、避難時の要支援者の登録をしてもらいました。各世帯から班長さんに報告し、町会毎にファイリングしています。

災害が起きないことが1番良いのですが、その保証はありません。地域の結び付きの度合いが強いほど災害に強いと言えます。今後は、避難弱者の皆さんを、万が一の際に安全に避難させることが求められます。災害の発生する時期・時刻により、様々なケースがあり、各班を中心に住民の皆さんに、その必要性を理解してもらうと共に、毎年の防災訓練時に、各班を行動単位として、避難弱者の安全な避難について訓練を繰り返していくことが大切だと考えています。



水消火器での消火訓練

地区社協では、例年各施設を慰問し、慰問金を贈呈しており、本年度も教材や備品購入等の一部として次の各施設に慰問金を贈呈しました。施設を利用されている方たちには、明るく楽しく活動していただきたいと思ひます。

- 第一わんぱくクラブ
- 第二わんぱくクラブ
- 第三わんぱくクラブ
- 第四わんぱくクラブ
- 第五わんぱくクラブ
- きらきらクラブ1
- きらきらクラブ2
- らっふる
- さくらんぼ共生園
- つくしこども園



## 認知症に関する研修 パート②

寒河江地区社会福祉協議会の認知症に関する研修会が、2月6日(日)にこころの宿一龍で開催されました。昨年度実施した認知症に関する疑似体験研修に続き、2回目の研修です。今回は講話と疑似体験ワークショップとの2部構成で実施しました。

第1部の講話では、公益社団法人「認知症の人と家族の会」の佐藤知生相談員を講師に迎え、『「認知症の人」と「ご家族」の立場から皆様へ伝えたいこと』という題目で、認知症に関する基礎知識をお聞きしました。その中で「認知症で一番苦労しているのは、認知症の人ご本人だが、世話をするご家族の苦労も理解してあげなければならぬ。そんな中、冷静に対応できる第3者の立場にある地域の支援が大きな力ギとなってくる。認知症の人が笑顔でい

ることができると地域であってほしい。」という話が印象に残りました。

第2部は、前回同様寸劇グループ『芝居DEワッショイ』さんとの疑似体験ワークショップです。昨年度の「気づき、つなぐ」からは「一緒に活動する」という一歩進んだテーマのもと、民生委員児童委員2名が「グラウンドゴルフを楽しむ」という寸劇で地域のゴルフ仲間の役を演じながら、初期認知症の人への対応を学びました。劇中、参加者にも「自分だったら、どう対応するか」と問いかける場面もあり、自分事として考えてもらうことも有意義なワークショップになりました。

(文責 安孫子 誠)



疑似体験ワークショップ

# 市社協の窓

## 寒河江市地域包括支援センター長 伊藤 三佳

寒さも厳しくなりましたが、皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

コロナ感染がなかなか衰えず、今は誰が感染してもおかしくない状況になってきています。長引くコロナ禍により、交流の機会が減り、足腰が弱った、物忘れがひどくなった等のご相談が増えたように思います。そこで、今の状態から悪化しないように、予防していくことへの取り組みが何より大切であることを日々の業務から感じているところです。

今回は、物忘れと認知症の理解についてお話させていただきます。

歳を重ねると「物忘れが多くなった。」という人が増えてきます。加齢による物忘れと認知症は同じように感じますが、違いは何でしょうか？

加齢による物忘れは物事の一部を忘れてますが、ヒントにより思い出すことができます。しかし、認知症は、物事全体を忘れてしまい、ヒントを出されても思い出すことができない症状になります。

### ★大切なこと

「認知症という病気」を正しく理解しましょう。早期発見し、適切



な治療やサポートを行うことで進行を遅らせ、本人、家族の戸惑いや不安を軽減することに繋がります。又、糖尿病などの「生活習慣病」が原因で

認知症になりやすくなります。

・バランスの取れた食事と水分補給

・定期的な運動（身体活動）

・人と会う機会（脳を鍛える活動等）を持つことが予防になります。

★どこに相談すれば：

### ①かかりつけ医に相談

これまでの健康状態などをかかりつけ医が一番よく理解しているため、認知症の症状が現れるようになったことを受診の時に相談すれば、かかりつけ医から過去から現在までの健康状態に合わせて認知症専門医を紹介して頂くこともできます。

### ②地域包括支援センターへ相談

認知症が進行すると本人だけでなく、家族の介護負担も増えることが予想されます。認知症になったとしても住み慣れた地域で安心して生活ができるように関係するところと連携を図りながらサポートしていきまします。また、認知症に関する出前講座も随時行っていますので、ご相談ください。



## 令和4年度寒河江地区社会福祉協議会 役員名簿

● 会長	長 庄司 啓一	(中部地区町会長連合会)	● 理事	事 佐藤 亮敏	(東部地区町会長連合会)
● 副会長	長 渋谷 義昭	(民生委員児童委員)	● 理事	事 安孫子 誠	(民生委員児童委員)
● 副総務	長 瀬野 千石	(東部地区町会長連合会)	● 理事	事 佐藤 玲子	(民生委員児童委員)
● 総務	長 白田 昭	(東部地区町会長連合会)	● 理事	事 太田美津子	(民生委員児童委員)
● 理事	長 眞木 恒雄	(中部地区町会長連合会)	● 理事	事 伊藤ケイ子	(民生委員児童委員)
● 理事	長 富樫 茂之	(中部地区町会長連合会)	● 監事	事 庄司 博行	(中部地区町会長連合会)
● 理事	長 岡 悟	(東部地区町会長連合会)	● 監事	事 石澤 春夫	(東部地区町会長連合会)

## 編集後記

◆ 今年で3年目となる新型コロナウイルス感染症のため、活動の中止が相次ぎましたが、ウィズコロナに向けた動きが見られ始めています。早期収束を祈念します。

◆ そのような中、会報が第11号を迎えることが出来ました。関係者並びに関係機関皆様のご支援ご協力のお陰と感謝申し上げます。

◆ これからやってくる雪の季節、厄介な雪との闘いになります。ドカ雪の時は、隣近所や除雪業者と協力し助け合い、安全で安心な毎日をお過ごしください。



女性防火員による消火訓練

○ 編集委員長

瀬野 義昭  
全役員